

Creating value together



1. 目録ARアプリで紙面中央のCreating value togetherをスキャン。Creating value togetherに込めたコマツの思いを植林機の稼働シーンを通じ、ご覧ください。
 2. 目録ARアプリで紙面右下の「KOMATSU」ロゴと植林機D61EMをスキャン。植林機の360°の3DCGモデルによる、植林の一連の動作をご覧ください。
- アプリのダウンロードと、詳しい視聴の手順は前のページをご覧ください。

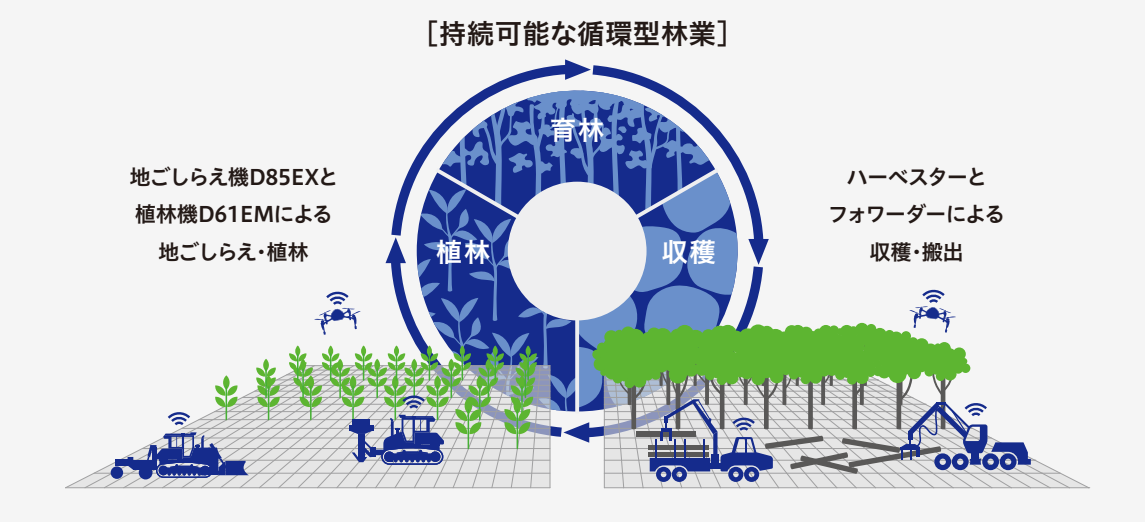
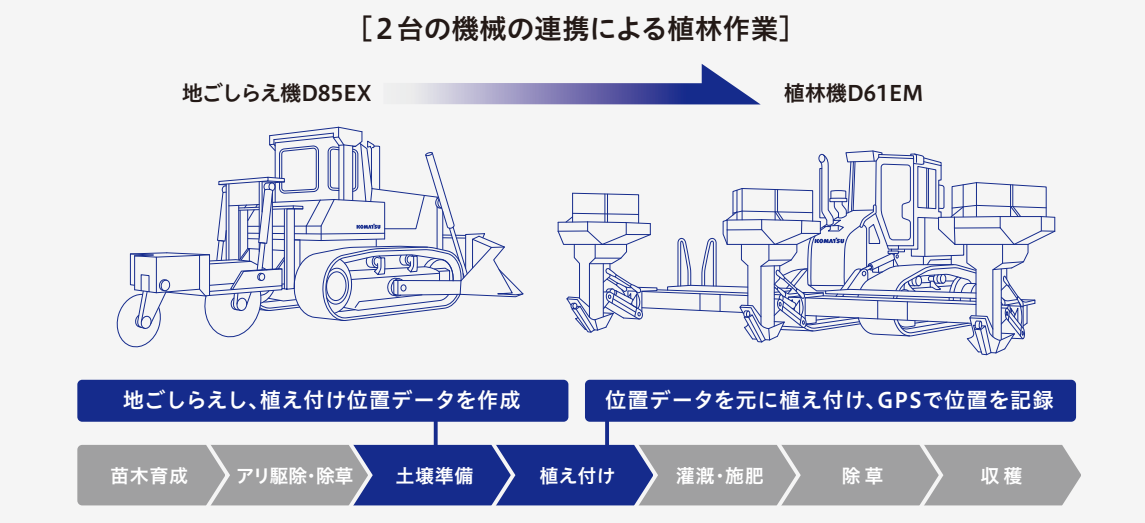
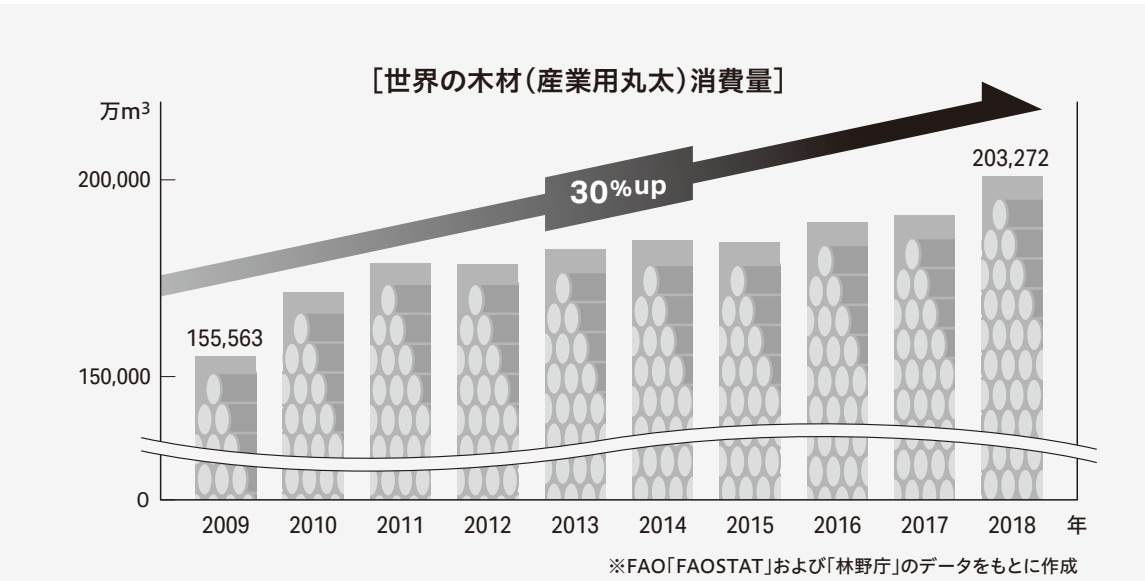
持続可能な社会に貢献することで、 コマツも成長できるのです。



社会に価値を生み出そうと思う。
世界のパートナーと手を組んで。
“Creating value together”という決意を胸に。
創立100周年を迎えたコマツが「やり遂げたいこと」をお話します。

代表取締役社長(兼)CEO
小川啓之

たとえば、「林業×サステナビリティ」。



「植林をする循環型林業へ。ブラジルで協業をはじめています。」

紙や建築資材など生活必需品の原材料となる木材。生活を向上させるために世界中で高まる需要を受け、ブラジルではユーカリの植林を進めています。植林は手作業が中心。重労働で危険な作業を機械化できないか、現地の要請にコマツは名乗りを上げました。



ブルドーザーを用いた植林機に建設現場で培ったデジタルトラッキングシステム(DX)を融合。

ブルドーザーをベースに開発した植林機は2台連携で仕事をします。1台が苗を植える地をならし、もう1台がその位置データを受け取り植え付けていきます。これはセンチ単位に取まり、高速で高精度な植林が可能になりました。

植えた場所は全地球測位システム(GPS)で記録され、収穫の効率化も可能になります。社会が必要とする新しい機械の製作に挑戦できたコマツは、建設現場のみならず、林業へもDXをもたらそうとしています。

スマート林業という新領域に挑む。「持続可能な社会の1員」として。

「技術を通じ、社会とともに発展する。銅山会社の一部門としてはじまり、1921年に「松製作所」として独立したときに掲げた理念は、技術の力で地域社会と成長していく決意を表しています。それは国連の持続可能な開発目標(SDGs)の中にある「産業技術革新」目標(SDG9)にある「産業技術革新」目標(SDG9)の5つのゴール達成に向けて取り組むことへつながっています。

コマツは植林機だけでなく、ドローンで計測した木の本数や成長度合いなどの情報をデータ活用基盤で分析し、森林の管理に生かそうとしています。今後もコマツは次の100年に向け、ものづくりと技術の革新で新たな価値を創り、人、社会、地球が共に栄える未来を目指し、ステークホルダーの皆さまとともに歩んでまいります。

1. QRコードをスキャン

2. ARアプリを起動

3. 植林機D61EMの3DCGモデルを表示

4. 植林機D61EMの稼働シーンを確認